

## 浮世絵と中国

太田記念美術館(原宿) 23.01.05~01.29



### 月岡芳年《月百姿 月明林下美人来》

『浮世絵』では「三国志」や「水滸伝」の豪傑たち、仙人や古代中国の衣装をまとう女性など、中国の人々が多数描かれている。さらに、「花鳥図」には内容に沿った漢詩が添えられていることもあり、江戸時代の人々の中国文化に対する親しみがみてとれる。

また、仙人を女性に置き替えや、豪傑の活躍をパロディ化や風刺的創作を加えた作品も人気があった。

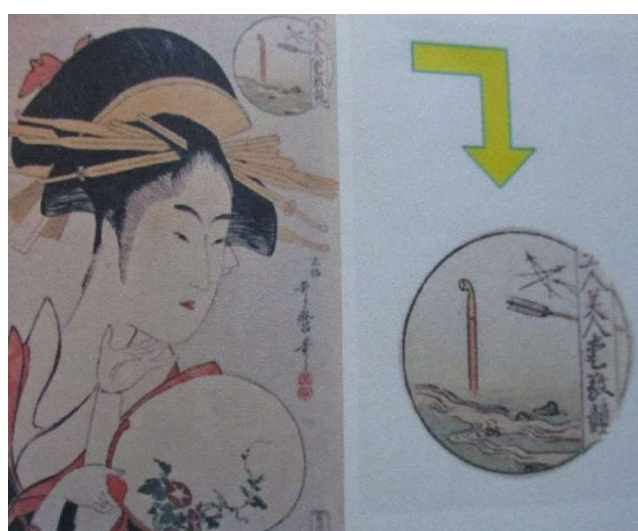
江戸時代は、長く鎖国下にあったとはいえ中国の古典文学や故事は教養として定着しており、また最新の中国文化は注目の的であった。

中国からもたらされた文物が、日本文化の展開に影響を与え続ける中、浮世絵師たちも中国由来のあらゆる画題を手掛けて派生作品も次々と生み出した。

本展は、江戸から明治にいたる『浮世絵』から中国文化の影響を示す作品を紹介して、その以外なつながりを読み解く企画で、江戸の人々が触れた「中国」を知ることは、『浮世絵』をより深く楽しむ鍵になることであろう。



鈴木春信《林間暖酒焼紅葉》



喜多川歌麿《五人美人愛敬競 松葉屋喜瀬川》

当時の江戸の町で評判だった美女たちの表情を大きくアップで捉えた大首絵で、朝顔の絵の団扇を持った遊女の喜瀬川は、顎に手をあてて物思いにふけているような表情が伺える。